様式3

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

学 校 番 号 69

福岡県立山門高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）			評　価（総　合）
学校運営方針	教師としての行動指針の根幹である「魔法はない、愛情はある」を全ての教育活動に反映させる。 ①全職員一丸となって山門高校の生徒のために教育活動に取り組む。誰一人後ろを向いたり横を向いたりせず、一丸となって行う。その中で職員は能力を最大限発揮しながら教育活動を行う。 ②生徒一人一人を大切にした教育の推進。自分は大切に育ててもらっていると生徒自身が実感できる指導の徹底を図る。 ③山門高校の教育改革を進め、変えるべき点は変え、維持すべき点は維持しながら時流にのった改革を推し進める。 ④ICTを活用した「学び」の推進を図る。オンライン学習と対面での学習の両立を恒常的に行う。		
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
○コロナウイルスの感染拡大を受け、学校行事も実施規模の縮小や中止にせざるを得なかったことも多いが、実施できた行事については、内容を工夫し生徒が意欲的に取り組んだ。また、市内小・中学校と連携したボランティア（地域貢献）活動には、多くの生徒が積極的に取組み、主体性を育む場となった。 ○授業については、落ち着いた環境で行われており、授業改善に積極的に取り組んだ。 ○本年度は昨年度の成果を踏まえ、次の点を課題として学校運営及び教育活動に取り組むこととする。 ①「観点別評価」を活用した積極的な授業改善の継続。 ②ICT時活用授業の積極的な実践によるICT活用指導力の向上。（一人一台タブレットの利活用の促進） ③理数探究コースにおけるさらなる特色化の推進。 ④「総合的な探究の時間」における地域連携の促進。 ⑤「授業の面白さ」「行事の面白さ」など、山門高校の魅力を全職員で発信。	A ○全ての生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、一人ひとりの適切な支援に努め、生命・健康、人権が大切にされる学校づくりに努める。	①生徒が誰でも安心、快適な学校生活を送ることができるよう、まず一人の職員として、学年として、教育相談委員会として、学校として、生徒一人一人への配慮に当たる。また、生徒相互の理解と配慮がなされるようにする。 ②保護者との密な情報交換と、職員間での情報共有に努め、適切な配慮をする。 ③生命、健康について取り上げる教科である「保健」・「家庭」の授業が、「生きる力」の基礎・基本を学ぶものとして大切にされるよう指導に当たる。 ④清掃状況には、学校の心の在り方が表れる。廊下に落ちた塵一つから学校にほころびが生じる。教師、生徒ともに校内に塵一つない、学びにふさわしい環境を整える。	
	B ○生徒の多様な進路希望を実現することができるよう、すべての生徒の学力を伸ばす。	⑤本校の特色であった「公務員・看護の山門」という言葉に象徴されるように、生徒の多様な進路希望に対して丁寧な指導に当たり、「全方位」的な進路実現を進めていく。 ⑥何のために、何が、どれくらいできるようになるのかということを意識した授業、学びを仕組む。「わかる、わかりやすい授業」を超えて、「わかるまで教える、学べる授業」、生徒が「納得できる授業」を仕組むために研鑽を重ねる。 ⑦「18歳成人」を意識し、県（公）立学校が果たすべき本来の役割に全力を傾ける中で、授業を始め教育活動の改善・充実を図る。 ⑧習熟度別授業・クラス編成の成果を上げる。特に、成績下位層に対して大切に入念に指導することにより、「大切にされてる感」を醸成し、自尊感情を高め、成績上位層に対しても良い効果を与える。（クロールが得意な生徒にはクロールを、平泳ぎが得意な生徒には平泳ぎを。） ⑨観点別評価を徹底させることにより、生徒それぞれの良さ、「持ち味」を見落とさずに育てる。 ⑩「理数探究コース」の一層の特色化を図る。	
	C ○危機管理意識を高め、「柔軟で強靭」な学校づくりに努める。	⑪管理職、主任・主事のリーダーシップのもと、常に先を見据え、危機回避の手立てを入念に講じる。 ⑫学年、分掌、教科、管理職間の報告・相談・連絡を密にし、高いレベルでの情報共有に努める。 ⑬学校行事は新型コロナウイルスの感染対策を十分に行い、創意工夫し通常実施となるよう努める。	
	D ○在り方生き方を考えさせる機会、失敗を恐れずにチャレンジさせる機会を学校の内外で仕組み、主体性、自律心や企画力、たくましさを育む。	⑭本校は4クラス規模であることから、生徒がリーダーになるチャンスに溢れている。「生徒が生徒に学ぶ、育てる」という教育活動を仕組み、生徒の背中を押し、「自分なりに」を超えて、もうひと伸びする機会、場面を工夫する。 ⑮特に、本校が「みやま市唯一の高等学校」であることを改めて強く認識し、市内小・中学校及び地元行政や企業・産業との連携（地域連携・地域密着）の中で生徒を育て、生徒が将来地域を支える人財となるよう、地元にとって本校が「頼りになる存在」として信頼を高めることができるよう、教育活動を充実させていく。 ⑯「主体性を育てる」ということについては、「放っておいて、さぁ！」というのでは、生徒は路頭に迷う。「透明の線路」を敷く（職員が導き支える）ことで、生徒が迷いながらも、主体性が育っていく。	

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
【教務課】 日常の生活リズムを整え、学習環境の整備を進める。学習面での生徒の自立を促す。	A 「命あってこそ」ー生命・健康、人権が大切にされる雰囲気、環境を整える。併せて「学びの場」にふさわしい「塵一つない」環境を整える。	②一定の配慮が必要な生徒については、各分掌・各学年と連携し、教員間で具体的な対応について情報共有を確実に行う。						
		③生命・健康に関わる単元を扱う教科で、教科横断的な取組ができるよう授業計画への導入を促す。						
		④生徒・職員が学習活動や清掃を含めた日常の活動を通じて、自ら学びの環境を整え、勤労や貢献の大切さを共に学ぶ。						
	B 生徒の多様な進路希望を実現することができるよう、すべての生徒の学力を伸ばす。	⑥進路実現をするために、職員一人ひとりが生徒に対してきめ細やかな指導を行う。						
		⑥新学習指導要領及び本校の新教育課程の導入に伴い、その内容を確実に実施できるよう職員間で共通理解を図る。						
		⑨生徒の多様な特徴を評価する観点別評価を確実に実施していくことで、生徒の学習意欲を向上させる。						
	D 失敗を恐れずにチャレンジさせる機会を学校の内外で設け、主体性、自立心を育む。	⑭教育活動の中で、生徒が自他を認め、互いに教え合う集団を育成する。						
		⑯授業の中で、生徒一人ひとりが主体的に取り組む場面を設ける。						
【企画課】	A 全ての生徒一人ひとりの適切な支援に努める。	②父母教師会と良好な関係を築くとともに、保護者との密な情報交換と教員間での情報共有に努め、生徒一人ひとりの適切な支援ができるよう配慮をする。						
	C 危機管理意識を高め、「柔軟で強靭」な学校づくりに努める。	⑪管理職・主任・主事に相談しながら、式典など早めの準備を行い、スムーズな運営に努める。						
		⑫学年・分掌・教科・管理職間の報告・相談・連絡を密にし、滞りなく業務が行われるよう努める。						
	D 失敗を恐れずにチャレンジさせる機会を学校の内外で仕組み、主体性、自律心や企画力、たくましさを育む。	⑮本校が「みやま市唯一の高等学校」であることを認識し、地域と連携した活動の機会を設ける。						
		⑯進路相談事業をはじめとする生徒募集活動において生徒の「主体性」を活かしながら、本校の良さをアピールし、志願者増につなげる。						
【生徒指導課】 生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるように愛情をもって生徒指導を行う。 また、基本的な感染防止対策を実施しながら、できることを工夫して学校行事や生徒会活動を行い、資質・能力を高める。	A 安全教育の充実を図る。	①②学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を徹底する。						
		①②学校生活アンケート、個人面談で生徒の状況を把握し、教育相談委員会（いじめ問題対策委員会）で情報の共有を図る。						
		①交通安全教育の充実を図り、バイク通学者には定期的に集会や実技指導を行い安全への意識を高める。						
		①必要に合わせて校外指導や校内巡視を行い、生徒の学校生活上の安全を確保する。						
		①学校行事等で事前指導を徹底することで事故の未然防止を図る。						
	C 危機管理を徹底し、学校行事や部活動の充実を図る。	⑪⑫危機管理マニュアルをもとに事故防止の徹底を図る。						
		⑪⑫地域の不審者情報や事件・事故等を周知することで安全確保を図る。						
		⑪⑫基本的な感染防止対策を実施し、学校生活の充実を図る。						
		⑬大運動会の企画・立案・実施を生徒会が中心となって行うことで成功体験をもたせる。						
		⑬文化祭を新2年生徒会を中心に実施することで愛校心や一体感をもたせる。						
		⑬生徒会全般の活動を通じて、自主性や主体性を高める。						
		⑬部活動への積極的加入を促す。特に1年生には部活動体験を行うことで入部率を高める。						
	D リーダーシップ、フォローワーシップの育成を図る。	⑭⑯大運動会・文化祭などの学校行事を通じてリーダー性を育成していくとともに、全員で成功させるために一人ひとりが何をすべきかを考えて行動できる態度を育成する。						
		⑭⑯基本的な感染防止対策を講じながら、地域でできることを探し地域連携を深める。						

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
【健康管理課】 生徒が心身ともに健康で安全な学校生活が送れるよう、教育相談の充実や感染症対策、環境整備に努めるとともに、生徒一人一人が主体的に自己の健康安全を守る力を育むよう保健指導を行う。	A コロナウイルスが収束しつつある状況であるが、注意すべきところはしっかりと注意しながら、生徒の心身の健康・安全が守られる環境を作る。	①②学校全体で組織的に生徒の心の健康を支えるため、毎月１回CS(スクールカウンセラー)を交えた教育相談委員会を開き、情報共有と支援の方策検討を行い、学年会議等を通じて職員に周知する。						
		①②個別支援が必要な生徒については個別支援シートを作成し、見直し、更新を行う。						
		①②生徒とスクールカウンセラーをつなぐ調整をするとともに、カウンセラーと学校間の情報共有（関係職員へのフィードバック、学校の対応等についてのｶｳﾝｾﾗｰとの意見交換など）を図る。						
		①②職員の生徒理解、支援力の向上のための研修・情報共有を行う。						
		①安心して学校生活ができる環境整備として、教室への空気清浄機・サーキュレーターの配備、手指の洗浄、消毒のためのハンドソープとアルコールを設置し、運用する。						
		①コロナウイルスが収束しつつあるが、注意すべきところをしっかりと注意しながら行事における救急対応体制を整える。						
		①「感染症を正しく恐れ適切に対応(自己軸対策・他者軸対策)する」力を育むため、「保健だより」等を使って正しい知識を教育する。						
	A 「学びの場」にふさわしい塵一つない環境作りを生徒減・職員減の状況でも成し遂げる。	④清掃区域割・分担表を作成し、誰がどこをどのように清掃すればよいかを明確にする。						
		④清掃用具の点検・補充を適切に行う。						
		④行事前などを中心として、美化強化週間を設定し、清掃の徹底を図る。						
		④ごみの削減のため、生徒・職員ともに個人のごみの持ち帰りや、紙の使用量見直し・リサイクルを呼びかける。						
	C 危機管理意識を高め情報共有を図る。	⑫健康管理に関する国や県の指針に基づき、管理職・各分掌との相談と情報共有に努める。						
		⑫災害に対する理解を深め、有事の際に実際に自分の身を守る行動ができるような防災避難訓練を実施する。						
		⑫生徒にもしものことが起こった時に迅速な救急救命ができるように、心肺蘇生・エピペン使用法の職員研修を実践的に行う。						
	D 健康管理、校内美化について、「生徒が生徒に学ぶ、育てる」教育活動を行う。	⑭保健委員会の生徒に健康管理のリーダーとして、アルコール補充や「保健だより」の作成等をさせ、生徒たち自身が健康管理を学び合うよう指導する。						
		⑭美化委員の生徒に校内美化のリーダーとして、ハンドソープの補充や清掃点検、掃除用具の点検・補充等をさせ、生徒自身が状況を把握して校舎の美化に努める意識を向上させるよう指導する。						
【進路指導課】 「総探」をコアカリキュラムとして、物事の現状を的確に把握し、自らの目標達成のために試行錯誤できる生徒を育てる。生徒ひとりひとりの多様な進路希望を実現させるために、入試情報の共有や全職員で連携した進路指導を行う。	A 学力や進路希望などの生徒情報や最新の入試情報を職員および保護者で共有する。	②模試分析を行い、課題解決のための今後の取組について職員間で共有する。						
		②年３回「進路だより」を発行し、時期に応じて様々な進路情報を生徒及び保護者に提供する。						
		②「進路のしおり」の内容の充実を図り、進路指導に役立てる。						
		②年３回「進路希望調査」を実施し、生徒の進路希望を全職員で共有する。						
	B 生徒の多様な進路希望を実現することができるよう、各自の進路希望に対応した進路指導を行う。	⑤科目別に希望できる課外・休日講座の内容の充実を図り、生徒の学力を高める。						
		⑤生徒の活動履歴や特性を生かし、総合型選抜や学校推薦型選抜での合格者を増やす。						
		⑤ふれあい看護体験やフィールドワーク、インターンシップなどの校外研修への参加を促す。						
	D 自己の在り方や生き方を考えさせる機会や失敗を恐れずにチャレンジさせる機会を与え、生徒の積極的な挑戦を促す。	⑬⑭生徒が自身の将来を主体的に考えることができるよう、第１学年「総探」を計画的に運用する。						
		⑬⑭テーマ別探究の内容を深め、他者に表現できるよう、第2学年「総探」を計画的に運用する。						
		⑬自らの進路希望の実現のために必要な準備をできるよう、第3学年「総探」を計画的に運用する。						
		⑬⑭生徒の挑戦を促すために、「やま盛チャレンジポイント」を運用する。						
		⑬生徒が自身の活動を振り返ることができるよう、「山門キャリアパスポート」を運用する。						
		⑮公務員課外の実施や外部との連携を図りながら、「公務員の山門」の型を発展させる。						
		⑮研修等をとおして、小論文や志望理由書の指導技術を向上させ、職員一丸となって指導する。						

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
【研修課】 生徒の資質・能力を伸ばし、意欲的に行動できる人財を育てるために、授業力をつけるとともに、教師としての資質の向上を図る。	A 生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、生徒の心身を支える教師の力量を向上させるための研修を行う。	①「心肺蘇生法」、「生徒理解と支援について（不登校、発達障害等）」の研修を全職員で行う。						
	B 生徒の多様な進路希望を実現することができるよう、すべての生徒の学力を伸ばすために、授業改善、授業力向上、ICT活用指導力向上を図る取り組みを行う。	⑥授業改善のための研究授業をすべての教員が行い、「わかる、わかりやすい授業」を超えて、「わかるまで教える、学べる授業」、生徒が「納得できる授業」を仕組むために研鑽を重ねる機会とする。						
		⑥授業アンケートを年に2回行い、分析と課題の明確化を通じ、授業改善を図り、授業力を向上させる機会とする。						
		⑥「本校における小論文、志望理由書の指導について」の研修、「私大入試問題研究会」を全職員で行うとともに、校外での諸研修への積極的な参加を促す。						
		⑥全教科統一テーマを「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善のためのICTの効果的な活用」とし、そのもとで各教科でテーマを設定して研究授業を実施していただく。						
		⑥授業参観を年に2回以上、「ICT活用指導力向上のための教科別研修」を年間3回実施し、教師間の学び合いの機会とする。						
	D 在り方生き方を考えさせる機会、失敗を恐れずにチャレンジさせる機会を学校の内外で仕組み、主体性、自律心や企画力、たくましさ（私がやる！）を育む。	⑭⑯図書の貸し出しを中心にした図書館の利用促進を図り、校内の図書委員会活動や、地区や支部での図書委員研修会などへの生徒の積極的参加と企画・運営を支援する。						
【第一学年】 職員が愛情をもって生徒に接し、時に厳しいことを指摘する時でも親身になって指導をしていくことで、教師と生徒の信頼関係づくりを行っていく。そうした礎を築いた後、生徒を高みに上らせるチャレンジ精神を育てていく。また生徒が自己理解を深め、自己の在り方生き方や、自己のチャレンジするべき様々な目標をしっかりと持てることができるよう、学年団全員で指導にあたる。	A 全ての生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、生徒の生命や人権が大切にされる学年づくり・学級づくりに努める。	①二者面談を定期的に行い、面談後は学年会で情報共有を図っていく。						
		②三者面談だけでなく、学年通信や総会時の学級懇談会等、多くの場面で保護者に情報を発信したり共有したりする場面を設ける。						
		③「保健」「家庭科」といった1年次の教科の大切さを説くことで、生徒の生命や人権を尊重する心を育てる。						
		④校内に塵一つ残らないよう、教師も清掃時間にはしっかりと生徒とともに清掃をする。						
	B 生徒一人一人に現時点での進路目標をもたせ、生徒の多様な進路希望を実現することができるよう、すべての生徒の学力を伸ばす。	⑤学部学科研究等、進路学習を進路課と連携しながら行い、生徒に現時点での目標を持たせる。						
		⑤進路課主催の模試分析を入念に行い、全ての生徒の学力を計画的に伸ばせるよう、教科間の連携をとっていく。						
		⑥クロームブックを生徒・教師側ともに活用し、授業や進路探究において効果的に使用していく。						
		⑦18歳成人を意識し、学年集会等の訓話では社会とのつながりや社会人としての規範意識等を説諭していく。						
		⑨観点別評価により、生徒それぞれの努力がきちんと評価されていくように学年でも共有する。						
		⑩理数探究コースの校外研修を活発に行う等、コロナ前に行っていたことを戻していけるよう提案する。						
	C 危機管理意識を高め、「柔軟で強靭」な学年団づくりに努める。	⑪⑫学年団で危機管理意識をもって生徒対応・保護者対応にあたり、知りえた情報はささいなことでも報告・連絡・相談を行う。						
	D 学校行事や校外活動を積極的に支援し、チャレンジを経験させていくことで、自己の在り方や生き方、主体性、自律心、企画力、たくましさを育む。	⑭⑮学校行事のリーダーや校外活動のボランティア等は学年集会等も開いて生徒に呼びかけていく。						
		⑯生徒が代表挨拶をしたり企画運営をしたりする際は、生徒任せにするのではなく教師がしっかりと裏で支える。また支えつつも「自主的」にやれたと思わせることも指導時に意識する。またたとえ失敗したとしてもどこが足りなかったかの事後指導を行っていく。						

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
【第二学年】 生徒が安心して前向きに学校生活を送ることができるよう愛情をもって教育活動にあたる。生徒が様々な機会にチャレンジし自分自身の個性や課題に気づき自己肯定感を高めることができるよう支援する。また、自己の在り方生き方を考えさせ、社会貢献の意識を醸成することで、自身の将来について主体的に考えることができる生徒を育てる。	A 生徒一人一人を大切にし、安心して学びに向かうことができる学年・学級作りを目指す。	①②定期的に生徒と面談を行って生徒の状況を把握し、保護者や職員間の情報共有を図ることで、生徒一人一人に対して職員が一致した教育活動を行う。						
		③生徒の学ぶ意欲や自身の在り方生き方を尊重し、すべての教科指導が教科横断的に人間形成に関わることを意識する。						
		④教室の環境整備や清掃活動を教師が率先して行い、生徒が自主的に美化活動を行うように促す。						
	B 一人一人の生徒が進路希望を明確にできるよう導き、主体的に学ぶ生徒の育成を目指して学年・教科全体で指導する。	⑤HR、総探、面談や学年掲示板などを通して適切な情報提供を行い、個々の進路目標を明確化させる。						
		⑥ChromebookやClassroomを活用した授業改善に取り組み、効果的な学習方法を工夫する。						
		⑦⑧⑨学年会や模試分析会で、それぞれの成績層別に指導の現状と課題、今後の指導方針を共有し学年全体で指導する。						
	C 危機管理を徹底し、関係部署との密な情報共有を図る。	⑫全職員が報告、連絡、相談を徹底し、チームで教育活動にあたることができるような雰囲気を醸成する。						
		⑬感染対策を十分に行ったうえで、生徒にとって有意義な取り組みや学校行事を行えるように創意工夫する。						
	D 学校行事や校外活動に積極的に挑戦させることで、生徒の主体性、表現力を育成するとともに、自身の在り方生き方を学ばせる。	⑭様々な活動において常に学校の中核であることを意識させ、リーダーシップ、フォロワーシップを育成する。						
		⑮探究活動や学校行事を通して、地域に根差し地域に愛される生徒を育成するために、各部署と連携して充実させていく。						
		⑯校外研修や生徒会活動、検定試験、ボランティア活動などを積極的に呼びかけ、すべての生徒が挑戦できるように適宜情報を提供していく。						
【第三学年】 全職員で愛情と情熱をもって、全ての教育活動を行う。生徒自身が自分の進路実現のために試行錯誤できるような環境づくりを行う。また、社会における将来の自己の在り方・生き方を考えることで、今自分がすべきことを逆算して考えることができる生徒を育てる。	A 生徒が落ち着いて学習できる環境を作り、進路について生徒が試行錯誤できるよう学年の職員や保護者など連携を図り生徒を支える。	①健康管理課と連携し、教育相談やカウンセリングを活用し、相談内容を保護者と共有する。						
		②生徒との面談を定期的に行い、面談の記録を共有することで、、生徒に対する進路指導の方針を確たるものにできるよう職員間の共通理解を図る。						
		④教室の美化に努めるとともに、掲示板を通して生徒の学習意欲を喚起できような掲示教育を実践していくことで、落ち着きがあり活気溢れる学習環境を目指す。						
	B 一人ひとりの進路希望を実現できるよう学習習慣を確立し、各教科で先を見据えた教科指導を行い、生徒全員の学力を伸ばす。	⑤生徒の多様な進路希望を全学年職員が把握し、それに応じた教科指導の工夫を年間を通して行い、「全方位」的な進路実現を進めていく。						
		⑥「わかるまで教える、学べる授業実践」のため、生徒の理解の手助けとなる教材の工夫やクラスルームでのデータ・動画配信などの学習支援を実行する。						
		⑦全ての教育活動を通じて18歳成人としての意識を持たせ、成年者としての主体性や社会に対する責任感を芽生えさせる。						
		⑧総合型選抜入試・学校推薦型入試についてまず職員が徹底的に研究し、習熟度に関わらず全生徒が自身の強みを活かして入試に挑戦できるようにする。						
		⑨数値のみの評価ではなく、学習面での生徒の良さを多面的に評価し、その評価が生徒の学習意欲を更に高めるような評価と学習のサイクルを確立させる。						
	C 危機管理意識を持って、丁寧な生徒・保護者対応を行う。	⑪⑫学年団全員が危機管理意識をもって生徒対応・保護者対応にあたり、知りえた情報はささいなことでも報告・連絡・相談を行う。						
		⑬感染対策および安全対策を十分に行ったうえで、生徒にとって有意義な取り組みや学校行事を行うことができるよう創意工夫する。						
	D 大運動会をはじめとする学校行事をとおして、生徒全員に主体性を持たせ、仲間と協力し物事を達成する力や失敗してもチャレンジしようとする心の育成を図る。	⑭リーダー指導を計画的に行っていく中で、成功・失敗体験を積ませ、生徒が自身の成長を実感できるよう計画的に指導していく。						
		⑮学校行事などを通じてリーダーシップ・フォロワーシップを身に付け、社会・地域貢献に生かすことができるよう指導や声掛けを行う。						
		⑯生徒が試行錯誤しながら成長していけるようこまめに生徒と面談し支援を行う。						

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
【理数探究コース】 理数探究コースの特色化を図るとともに、「楽しい」をとおして様々な事象を深く考察し、意欲的に学びに向かう生徒を育成する。	A 理数探究コースのすべての生徒が自己肯定感を感じられるような取組を企画・運営する。	①学年を超えた立体的な指導を実現するための、授業や取組を計画し実行する。						
		①「理数ラボ」「国際理数」をとおして、生徒が学ぶ楽しさを感じ、主体的に学びに向かうよう支援する。						
	B 進路実現に必要な情報を共有し、生徒が主体的に進路選択できるよう支援する。	⑩進路指導課と連携しながら、大学と連携した研修や校外活動研修の充実を図る。						
		⑩理数探究コースプロジェクト会議を定期的に開催し、生徒情報や校外活動の情報を共有する。						
	D 理数探究コースの特色や	⑰理数探究コース通信を年に3回発行し、生徒の活動を保護者や地域に発信する。						

	生徒の活動の様子を地域に発信する。	⑰広報と連携し、地域の中学生を交えた取組を企画し、実行する。						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策	評価項目以外のものに関する意見
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	